

看護系の大学教員における勤務継続のための要因

－ 当事者の語りからの一考察 －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
河原 照子

今日、看護系大学の急激な増加による教員の不足、質を担保することが困難になってきている。新人教員が直面する困難も多く勤務の継続は難しい状況である。その問題について、当事者の新人教員を対象とした研究は多くみられる。しかし、本研究では、勤務継続のための要因を明らかにすることを目的とし、臨床経験10年以上かつ教員経験10年以上の現職の教員3名を対象にインタビュー調査を行った。

逐語データは、修正版グランデット・セオリー・アプローチ(M-GTA)にて分析を行い、15の概念、8つのサブカテゴリー、5つのカテゴリーが生成された。それらの関係から、看護学系の大学教員の職務遂行への思いに関するプロセスのストーリーラインおよび概念の関連図の作成を行った。職場環境での困難さや、自分自身の能力不足などを、心理的物理的支援や大学院進学などによって克服していることが示された。また、看護観の熟成や教育観の出現などにより、やりがいが生まれていた。このように勤務遂行において、負の概念がバネとなって、前向きな取り組みや考えに繋がっていることが分かった。

キーワード：看護教員、継続、M-GTA